

=ともに生きる暮らしをめざして=
特定非営利活動法人
尾張地域福祉を考える会まごころ
まごころ訪問介護事業所

まごころ

平成15年 12月1日 No.126
〒491-0041 一宮市文京1丁目4-6
☎ 0586-73-8707
FAX 0586-73-8870

ご参加ください！12月6日(土)午後1時～3時

「痴呆を考える」講演会開催します

・・・呆けても普通にみんなと暮らしたい・・・



大阪大学大学院教授・(元)朝日新聞社論説委員

大熊由紀子講演会

講演テーマ
高齢社会の課題「痴呆を考える」
～呆けても安心して暮らせる社会～

大熊由紀子プロフィール

東京大学教養学科で科学史と科学哲学を専攻。
朝日新聞社科学部次長を経て1984年論説委員。
2001年から大阪大学大学院人間科学研究科
ソーシャルサービス論教授。
千葉県21世紀健康福祉戦略検討委員会座長、
滋賀県高齢化対策委員会会長。
著書『「寝たきり老人」のいる国いない国・真の
豊かさへの挑戦』『福祉が変わる医療が変わる・
日本を変えようとした70の社説+d』などいろいろ。

高齢社会は痴呆社会ともいわれられていま
す。痴呆は病理ではなく、生理だとも言
われます。私たちの対応は間違っていない
いでしょうか。どう支えれば安心して暮
らせるのでしょうか。これまで、痴呆につ
いて、多くの提言をされてこられた大熊
さんと一緒に考えます。ご参加下さい！

参加費：800円
場所：一宮スポーツ文化センター
3階小ホール
主催：NPO法人まごころ

大盛況！「まごころふれあい祭り」

様々な方々が、それぞれの笑顔を残して下さいました。

作品や演奏に大きな拍手

去る十一月八日(土)に行われた
「まごころふれあい祭り」は、絶好
の祭り日和に恵まれ、多くの皆さん
で賑わい、温かな楽しい祭りとなり
ました。高齢者や障害児童の作品に
まごころミニデイサービス利用の方
々による歌や楽器演奏に、大きな大
きな拍手をいただきました。

模擬店大繁盛

様々な方々が集う

また模擬店では、授産所作りを目
指すうさぎのパン屋さんは早々に完
売、みたらし、おでん、カレーも大
評判でした。会場は、ビンゴゲーム
やら楽器の音や歌声が終始響いてい
ました。

まごころの会員さんや利用者さん
とご家族、地域の皆さんやボラ
ンティアさん、ふれあい広場利用の
親子さんなど、障害のあるなしに関
係なく老若男女様々な方々が一堂に
会し、行き交う機会となりました。

広場では、在宅サービスを利用さ
れておられる方々やお子さんが、在
宅に伺っている担当ヘルパーを見つ
けて、本当に嬉しそうでした。勿論、



「まごころふれあい祭り」の様子(12月8日)

ヘルパーも同じ。在宅支援とは違っ
た雰囲気があったのでしょうか。
外出の機会にもさせていただけだ
けでしょう。今後も様々な方々とのふれ
あいの場を作っていくかなければと励
まされた思いでした。ご参加下さ
った皆様ありがとうございました。

No.46 チェック介護保険・支援費

質の高い人材育成には、
継続的に学ぶ場作り

痴呆介護で、思い悩んでいるヘル
パーさんは多い。しかし、日々のヘル
パー業務に追われ、学習の機会は
多くないのが実情です。

先日、ある痴呆セミナー分科会で、
不安な様子の痴呆の方には率直に
「困っていることはありませんか」
と、その方に聞いてみる方がいい
というお話がありました。

介護の基本である「安心」をどう
示していくかなのでしょうか。
不安を具体的に言葉にしていただ
いたり、紙に書いてもらったりする
という極めて普通な対応が、痴呆症
の方には必要だという学び。

分かっていそうで、気が付いてい
ないことを、具体的に提示される学
習がヘルパーには必要です。

また、妄想と初期痴呆ケアでは、
ヘルパーが、燃え尽き症候群になっ
ているケースがあることについて

「痴呆と妄想ケアをコーディネート
出来る人が地域の中にいて、ヘル
パーに的確な対応指導が出来るシス
テム作りが必要であり課題です」と
話されるのは、自らがシステム作り
を実践されている神戸大学大学院医
学系研究博士課程の沖田裕子さん。
現状は、地域の中にそのシステム
作りが、まだないのが実情です。

◇ ◇ ◇
こうした新しい具体的な学びを、
時間がない多くのヘルパーも参加出
来るよう、特別な場所ではなく、地
域の中にその機会を多く作ってい
かなければなりません。

支援費 受けられないサービス

「通学の送迎」

「母親の体調が悪いので、バス停
まで子供を送れないから、今日は学
校を休ませました。結局、私も体を
休めることが出来ませんでした」
障害児をお持ちのお母さんから、
こんな話を度々耳にします。

毎日の通学に、バス停までの送迎
が必要なお子さん。

自宅からバス停までの送迎を、母
親に代わって支援費のサービスが使
えないかと考えてしまいそうですが、
支援費には、理由を問わず通学の送
迎は含まれていないのです。

こんな時、ご家族がいらっしゃら
ない方は、学校を休ませるか、ボラ
ンティアさんか有償の助け合い活動
を利用されるかですが、実情は厳し
いようです。もし、理由によっては
支援費利用出来れば、母親は安心し
て病み、休むことが出来ます。